



## ハワイ大学からの交換留学生

本年も、本学の国際交流締結校である、ハワイ大学医学部 (University of Hawaii, John A. Burns School of Medicine: JABSOM) から、4名の交換留学生がやってきています (6月27日~7月10日)。

彼らはJABSOMでのPBLカリキュラムの1年次を修了し、8月から2年次のカリキュラムに入る学生ですが、教育課程の違いから、佐賀の3年次修了時点に相当する学生です。今回の来日の目的は、臨床実習であり、附属病院での高度先進医療から、地域基幹病院での医療、診療所のプライマリケアまで、日本の医療を幅広く経験してもらいます。

また彼らは6月30日に3年次「臨床入門」の一環として、ハワイ方式のPBLのデモンストレーションもしてくれます。これは3年生以外も、見学を歓迎します。そのほか、学生団体SMILEの恒例行事“ハワイアン・タベ”も開催される予定ですから、4年次までの学生も交流の機会が多いと思います。そのほか、IFMSA (国際医学生連盟) の留学生も同時期に滞在しています。

このような交流は、海外で医学教育を受けた医学生たちの実力や学習姿勢を知る、またとないチャンスであるとともに、実は、自分たちの実力や学習姿勢を見つめ直す良い機会です。何かと批判的な論調で描かれることの多い日本の医療ですが、外から見た日本の医療の特質を知ることによって、見えてくるものもあります。

英語での交流は容易ではないかもしれませんが、新しい一歩を踏み出すきっかけになることを願っています。

(小田康友)

り今度は成人の百日咳報告が急増してきた。2007年には高知大学や香川大学 (いずれも医学部!) で集団発生の報告があり、佐賀大学医学部でも2008年には散発的な発生があり注意喚起が出されている。今や大学生の世代は百日咳感染のターゲットとなっている。

今年の佐賀大学医学部での集団発生は、飲み会の同席者や同一部活内で発生しているケースが多く、新入生の勧誘行事や部活を通じて広がった可能性が高い。しかも問題は病棟実習中の学生に感染者が出たこと! 想像してみてもいい。大学病院は小児科もあり感受性のある子供達も多数通院、入院している。大きな病気で免疫機能の低下した人もたくさんいる。このような人たちに感染すると場合によっては取り返しのつかない結果を招く可能性すらある。

このような場合の対策はどうすればよいのか? 百日咳の感染経路は飛沫感染で、その名の如く長引く激しい咳が続く。感染拡大防止の基本は感染源の隔離と感染経路の遮断が原則。ひとつは出席停止 (しばらく他人との接触を避けてもらう) それと咳エチケット! 感染経路が飲み会や部活が主体と考えられたため、やむなく一部の部活では練習や対外行事の自粛をお願いした。幸い百日咳はマクロライド系抗生物質が有効で、服用後5日程で菌は検出されなくなる。皆さんの協力もあり6月に入って急速に症状がある人は減少してきていてこれ以上の感染拡大はせずに済みそうな状況にはなりつつある。しかし、医学部の学生であれば、くれぐれも症状のある人が無理をして実習に参加したり、部活に出たりすることは厳に謹んでほしい。患者さんや病院内へ与えるインパクトの大きさを考えると、症状のある人は治療を受け、感染を防ぐためには勇気をもって休むことが必要になる。 (保健管理センター 尾崎岩太)

## 百日咳が蔓延!

1年前、2009年の今頃を思い出してみた。日本中が新型インフルエンザにビリピリしていて、マスコミでは昨日は何処そこで患者が何人、今日は何人発生との報道が続いていた。多くのイベントが中止され、学級閉鎖・休校も続いた。幸い今回の新型インフルエンザの毒性は従来の季節性インフルエンザと大差なく、今年もはや過去の感染症になったかの如くである。

しかし、過去の病気と思われていた感染症が再び広がりを見せている場合がある。今年2010年の新学期が始まった後、医学部キャンパスでは長引く咳を訴える人が相次いだ。例年この季節は、季節の変わり目で学生の生活環境も変わるからかぜ症状を訴える学生が多くなるが、通常は連休後には終息していた。しかし、今年は連休前から連休明けになっても長引く咳を訴える学生が続き、症状から百日咳が疑われたため附属病院を含むいくつかの医療機関で検査を受けた学生で百日咳の抗体が上昇、遺伝子検査でも百日咳菌が検出され、百日咳感染のアウトブレイクが起こっていることが判明してしまった!

かつて百日咳は乳幼児に流行する病気で、しばしば重症化例がみられており、学校保健安全法では集団感染を防ぐ必要のある感染症に指定されており、罹患した場合は出席停止となる場合がある。1950年に百日咳ワクチンが導入され、1981年にジフテリア・百日咳・破傷風三種混合ワクチン(DPTワクチン)が定期予防接種に取り入れられてからは百日咳患者数が減少していた。ところが、大規模な流行がなくなってくると自然罹患によるブースター効果がなくな

## 九山の結果について

第49回九州・山口医科学生体育大会が、福岡大学を主幹校として3月20日から5月5日までの日程で開催されました。

本学からも体育系の各部活が参加し、優秀な成績を残しています。

特に優勝を飾った競技については次のとおりです。

### 卓球

男子シングルス, 女子団体, 女子シングルス, 女子ダブルス

### バドミントン

コメディカル大会女子個人戦シングルス

### 剣道

女子団体戦, 女子個人戦

### 水泳

男子50m自由形, 男子100m自由形

### ボート

総合優勝, 男子舵手付きフォア (対校), 男子舵手付きフォア (一般), 男子ダブルス, 女子舵手付きクワドルプル, 女子ダブルス

(学生サービス課)

### 教育広報部会

小田康友, 池田豊子, 市場正良, 吉田和代, 江村正, 藤田君支, 本間治  
ご意見をお待ちしています ([oday@cc.saga-u.ac.jp](mailto:oday@cc.saga-u.ac.jp))